

建築家 通信

2017.4.30
vol.113

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
JIA長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com

長野県学生卒業設計コンクール

(株)手塚建築研究所 代表 手塚 貴晴



ふじようちえん



学生の模型の手直しをはじめる手塚先生

松本には数度訪れたことがある。学生の頃はサイクリストとして延々と野を越え山を越えペダルを漕いで来た。近年は東京都市大学の一年生120名を連れて宮本忠長さんと伊東豊雄さんの作品を見学した。松本というのは不思議なところで、東京から200キロも離れていないのにも関わらず、遠方を訪れた風情がある。新宿から特急あずさに2時間揺られて向かう。この地の学生は新幹線が通っていないことを幸運に思うべきであろうと思う。近年私は日本全国津々浦々卒業設計展へと向かう。ところがどこへ行こうと今や殆ど見るものが同じになりつつある。小綺麗な模型と上手く取り纏われたコンセプト。今や情報はiPadでいくらでも手に入る。近年はどこかの大学でも建築家が入り込みプレゼのテクニックも上がっている。しかし気になり始めたことがある。その学生たちは本当に自分で考えているのだろうか。今や学生は素直になって教員の言うがままに案を変えていく。そして教員のことを良く聞いた学生が設計コンクールを勝ち抜いて行く。これは本当の彼らなのだろうか。正直なところ、長野卒業設計コンクールの作品は洗練されていない。しかしその奥に自らが考えた健全な「もがき」を感じたのである。良い作品がいくつもあった。それぞれの学生は流行に流れず、自分で考えている。かつて我々が学生だった頃、どの大学にも今ほど建築家はいなかった。私の通っていた頃の武蔵工業大学では既に新居千秋さんが教えられてはいたが、新居先生は非常勤の外様であって、一学年全員を巴辰一さんという相棒とたった二人で教えていた。軽量鉄骨のパイオニアである広瀬鎌二さんがいらっしまったが、既に殆ど作品を作ることを辞められていた。だから我々学生達は自分で全て考え

ねばならなかった。全て暗中模索。当時はインターネットなどない。そういう中から浅石優さん、新居千秋さん、堀場弘さん、手塚貴晴と手塚由比、そして福島加津也さん、石上純也さん、羽鳥達也さんといった学会賞作家が順々と育って行ったのである。東京の学生は恵まれている。学生は悩む前に先生から答えを与えられてしまっている。しかし皆さんは慌てなくていい。自分で考えているのだから。しかし学び続けてほしい。建築設計の世界は限りなく深く広い。建築に限界はない。

ここで、諸君に私はどういう作品を作れというつもりはない。それは学生諸君が見つけて行く答えである。大切なことは誰のために作るかという点である。人生は一本のロウソクに似ている。如何に明るく輝こうとも、如何に長く灯続けようとも、大差はない。大切なのは何を照らすのかということである。それは誰に教えられるものではなく、自分の人生の中で時間をかけて掴んでいくものである。私は建築家となった自分は実に幸運だと思っている。建築家は人の人生や世界を変える力を与えられている。たとえ日本国首相であろうとも政治家は四年毎の選挙という洗礼を経なければならない。一方建築家という仕事は、50年100年の時を超え人に影響を与え続ける事が出来る。その波及力は建物の規模に比例はしない。たった一軒の住宅が社会を変えることもある。建築のプロ世界に踏み入れた皆さん。おめでとう。頑張ってください。



第11回建築祭は、第25回文化講演会、第26回長野県学生卒業設計コンクールの2つのプログラムを中心に一般公開されました。一年かけて準備してきた事業委員会の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様のお陰で無事に終了することができました。ありがとうございました。



1日目の文化講演会には、建築家の手塚貴晴先生と由比先生をお迎えし、「建築家の仕事」と題してご講演をいただきました。講演でご紹介いただいた「ふじようちえん」の子供達の笑顔、人の営みから生まれる建築の姿を見て、お二人が何のために建築をつくってきたかという想いを強く感じる事出来ました。

文化講演会「建築家の仕事」

2日目の学生卒業設計コンクールでは、手塚貴晴先生に審査員長として公開審査を行なって頂きました。学生達の考えを正面から受け止め、普段と変わらぬ実務レベルで指導いただき、その場で模型に手を加えながら、より良い建築としてどう考えていくかを目の当たりに出来た事は、これから建築の道に進む学生にとっては、大きな節目にもなる時

間ではなかったでしょうか。最後に手塚先生から頂いた、「建築は社会を変える。私は建築の力を信じている」という言葉を、学生も我々もしっかりと受け止め、充実した2日間となりました。これまで諸事情により公開審査に参加出来なかった高校生にもぜひこの機会を経験して欲しく、次回への課題としていきたいと思ひます。また、今回から松本市美術館長さんにも審査員をお願いし、建築家とは違った視点で審査を頂く事が出来ました。一般の方の投票による市民賞も、例年同様多くの投票を頂き、学生にとって大きな励みとなったかと思ひます。引き続き、市民に開いた事業の役割として継続していきたいと思ひます。

これまで松本市美術館との共同企画「みつめようくらしの場。ひと、まち、建築」の一環として開催してきた建築祭も、次年度からはJIA長野県クラブの単独開催となります。今後も会員の皆さんと一緒に、建築を通して社会に貢献出来る事業の在り方を探って行きたいと思ひます。



表彰式

長野県卒業設計コンクール 受賞者の声

大学生金賞

信州大学総合理工学研究科 建築専攻 小山田 優衣

この度は長野県学生卒業設計展コンクールでの受賞と、このような機会をいただきましたこと感謝申し上げます。私は卒業設計で貧困の子どもに食事を提供する「こども食堂」について調査し、空間的課題の改善と評価点の発展を目的として設計を行いました。「こどもの居場所」を考えると同時に、子どもの貧困という「社会問題」へどのようにアプローチし建築の役割を考えるのが、この設計を行う上での最大の課題でした。答えがない課題に取り組むのはとても辛い日々でしたが、多くの人に支えられこうして形にできたことをとても嬉しく思ひます。こども食堂は「地域への開放性」や「食を囲むという行為による空間の共有性」など魅力的な所がたくさんあります。貧困のようなネガティブな出発点であっても、人々の新しいコミュニティへ好転が起こっていくように、これらも建築を学ぶ学生の一人として何が出来るのかを考えながら頑張っていきたいと思ひます。

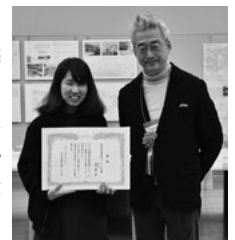


審査風景 手塚先生と

市民賞

信州大学総合理工学研究科 建築専攻 高薄 英理

このたびは市民賞という名誉ある賞をいただき、心から感謝申し上げます。集合住宅を設計したので市民の方に選んでいただいたことを非常にうれしく思っています。今回の設計では、無機質化する都市と衰退する農業に着目し、都市の中に農を付加した集合住宅を提案しました。面で構成される農地を立体的に配置し、住戸と隣接させ、内部である住戸と外部である農地を近くするために中間領域である温室を複合しました。温室では冬期のウインターガーデンのほか、店舗やコミュニティスペース、様々な活動が可能となり、農によるコミュニティが形成されます。この作品を制作する中で、自分の考えを表現するむずかしさや、知識の少なさを実感しました。農業と建築というテーマを主眼に、どのように建築を作れば農のある暮らしができるのか試行錯誤しながらつくりました。未完成な作品ですが、今回の受賞を活力として、これからも精進したいです。このたびは誠にありがとうございました。



受賞後 松本美術館館長と

祝 受賞・表彰

第13回長野県建築文化賞

一般部門 優秀賞 ▶ 安曇野市庁舎 内藤 廣・小川原吉宏・尾日向辰文 / 内藤・小川原・尾日向設計共同企業体

一般部門 奨励賞 ▶ 藪原宿にぎわい広場 笑館 寺内美紀子・山田健一郎 / 信州大学寺内美紀子研究室+山田建築設計室

住宅部門 最優秀賞(知事賞) ▶ 飯綱山荘 丸山 和男 / news設計室

住宅部門 優秀賞 ▶ プラットフォームハウス 山田健一郎 / 山田建築設計室
大町の家 百瀬 満・百瀬万里子 / 設計工房 悠

住宅部門 奨励賞 ▶ 松原すきっぷ 尾日向辰文 / 尾日向辰文建築設計事務所

リノベーション部門 優秀賞 ▶ Kura³ 夢倉庫 甘利 享一 / 甘利享一建築設計舎

開催したイベント

- 2月5日(日)・・・くらしの空間セミナー
- 2月18日(土)・・・日事連建築賞優秀賞
「山の子保育園」見学会
- 2月25日(土)・・・文化講演会
- 2月26日(日)・・・長野県学生卒業設計コンクール
- 4月21日(金)・・・2017年度通常総会

今後の行事予定

- 6月3日(土)・・・地域材フィールドワーク
- 6月17日(土)・・・環境セミナー①
- 7月22日(土)・・・環境セミナー②

編集後記

今号は2/25、26に松本美術館において開催された第11回建築祭についてお送りします。
手塚先生の力強い言葉は、若い方だけではなく、建築に携わるすべての方に新鮮な志を思い出させてくれるような気がしました。
学生卒業設計コンクールは、もう活躍されている建築家の皆様にとって大切な催事なのかもしれないと思ひました。……………百瀬万里子
皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。



編集人 / 百瀬 万里子 発行人 / 山口 康憲
発行所 / JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL : 026-232-3897 FAX : 026-232-5303
<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com